

海外に大きく依存している農地

国内の農地面積
437万ha



海外に依存している作付面積
約1200万ha



資料: 中田哲也 (2009)『フード・マイレージ』70,71頁

- ・世界の人口増加・所得増加で、食料不足が懸念される中で...
- ・単収の伸びが今後期待されない中で...
- ・地球温暖化(砂漠化)で、耕作可能な面積・収量が減少する中で...
- ・地球温暖化で、食料がバイオエネルギーとして生産される中で...

日本が食料輸入することで節約された水

◇バーチャルウォーター(仮想水)

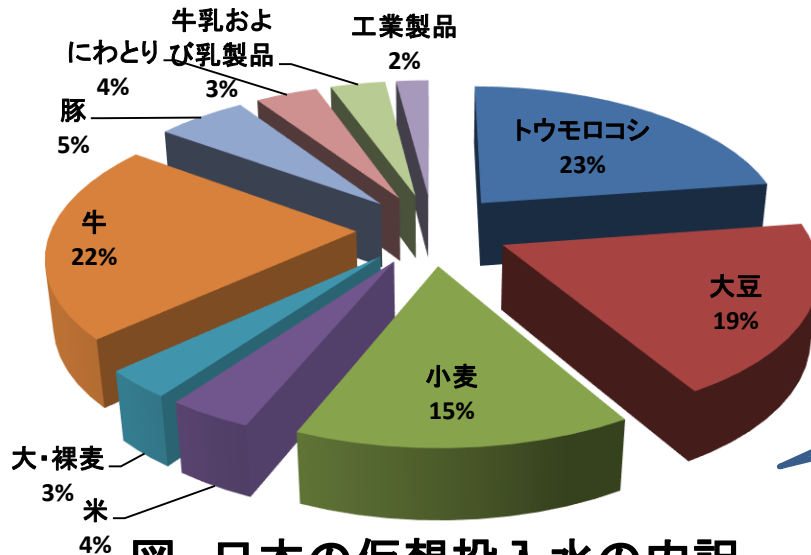
バーチャルウォーター：
食料を輸入することによって、輸入国で節約された水資源

日本国内

年間仮想水総輸入量：約640億立方メートル
年間総水資源使用量：約900億立方メートル
年間灌漑用水：約570億立方メートル

地球上の水

約2.5% 淡水
生産活動・生活用水として利用可能な水
約0.8%



仮想水の
98%が食料
うち、8割が飼料
穀物・油糧
種子・畜産物

- * 世界の22億人(30%)が安全な水を自宅で確保できない。
- * 水道水がそのまま飲める国は、12カ国。
- * 42億人(55%)が安全に管理されたトイレを使用できない。

図 日本の仮想投入水の内訳

(東京大学生産技術研究所ウェブサイト)

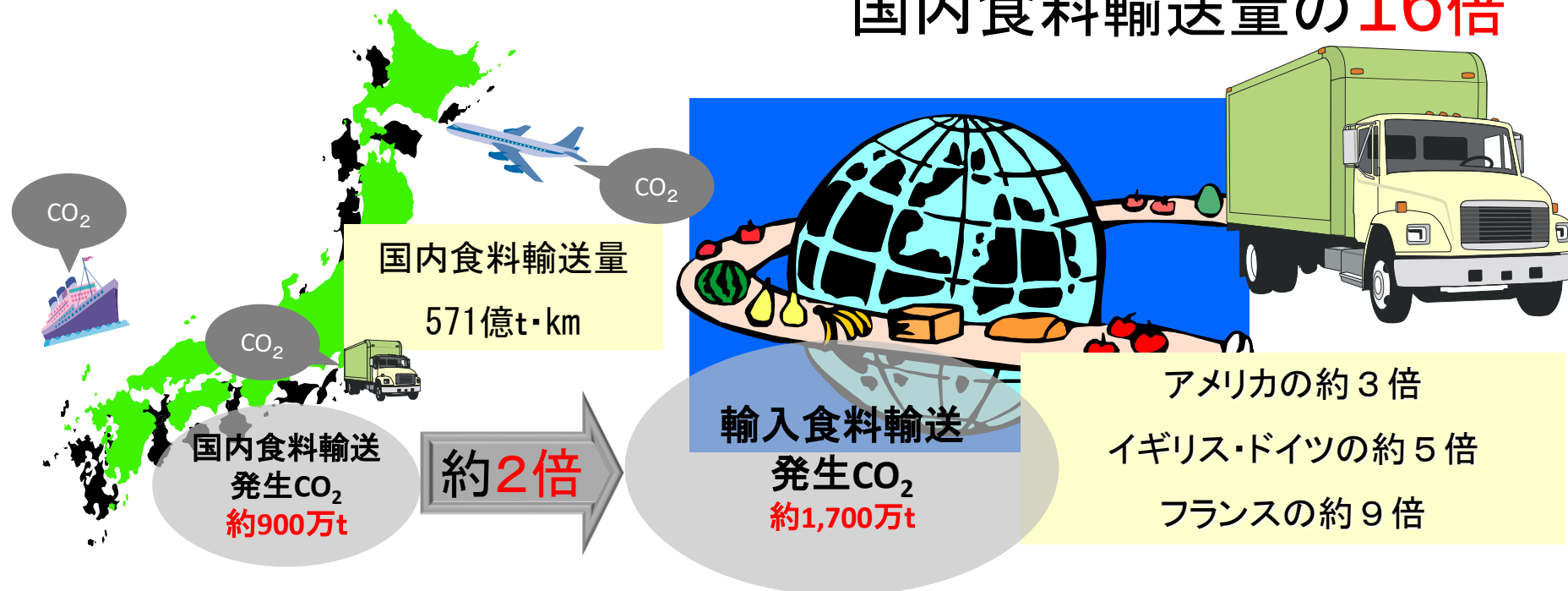
貴重な水資源の中での水を奪うことに...

食料輸送と環境負荷

◇日本のフード・マイレージ

$$\begin{aligned} & \text{食料輸入総量} \times \text{各国からの輸送距離} \\ & = \text{約9002億t} \cdot \text{km} \end{aligned}$$

国内食料輸送量の**16倍**

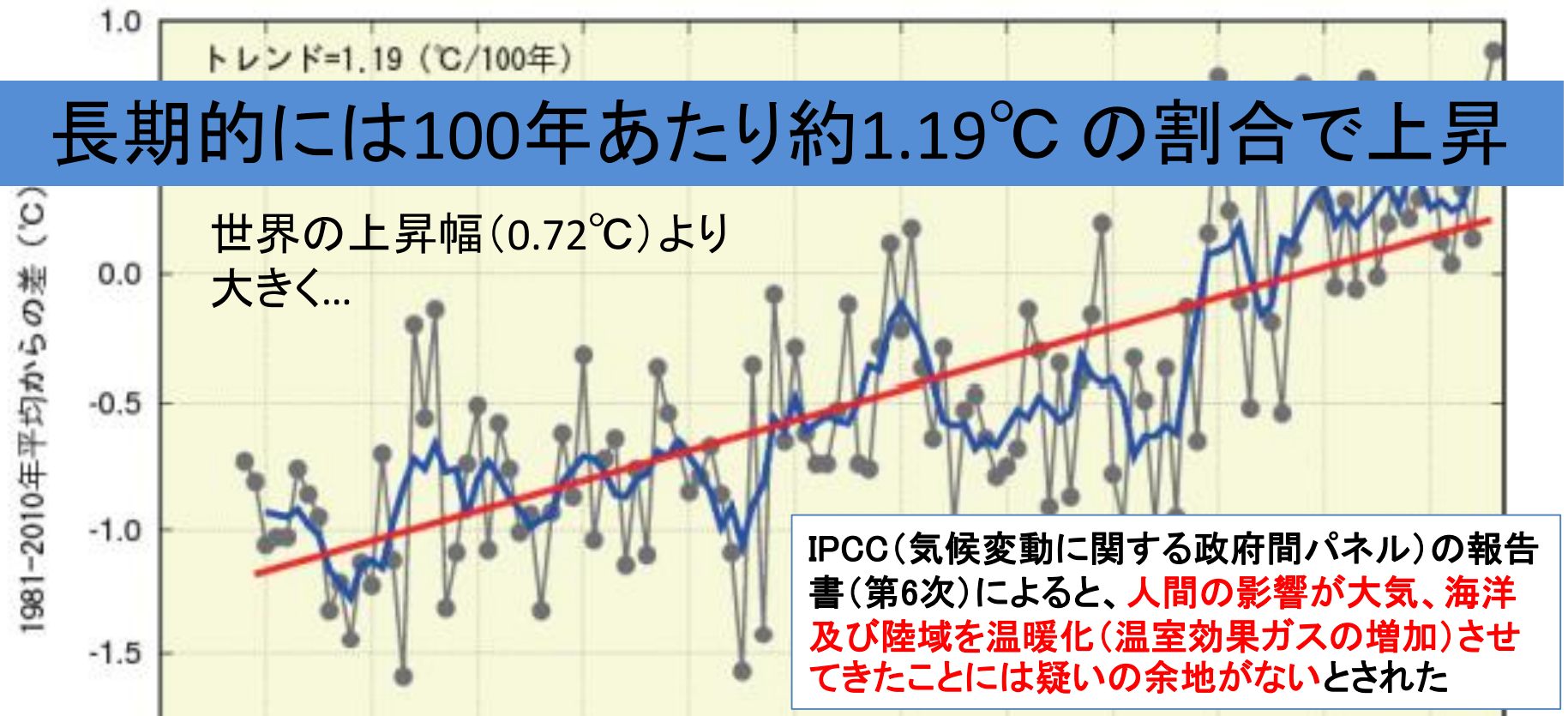


大きな地球環境への負荷

大量に必要な輸送エネルギー

日本の年平均気温偏差の推移

日本の年平均気温偏差



日本の21世紀末の気温は全国的に上昇すると予測される。低位安定化(気温上昇2°C以下に抑える目標で開発)シナリオで0.5~1.7°C、**最大排出量の高位参照シナリオで、3.4~5.4°C上昇(低緯度より高緯度で上昇幅大)**と予測される。(環境省他2018「日本の気候変動とその影響」より)

将来の日本の食料生産の潜在量は減少することが懸念される

三つ子の魂百まで



私たち大人の願いは…

- 健康な子
- 元気な子
- 活発な子
- 明るい子
- 優しい子
- 協調性のある子

などなど…

環境づくりは大人の役割

■「食べごと」とは？

食べるというのは料理を食べるというだけではなくて生活なのである。それも生活の一部ではなく、生活丸ごと。だから、“食べる”というより“食べごととする”の方がずっと胸におちる表現である。まな板で菜を刻む響きや、炊き上がった飯の香りを生み、子が親に指示されて飯椀を供える仏前にもつながっていく。むろん食卓の談笑も、ときには「酒ごと」の喧噪も、それらすべてが終って食器を洗う指先の冷めたさも、みんな食べごと。

じつにさまざまな意味を、無限に、「食べごととする」のなかから取り出すことができる。

気付いてみると、「食べごと」を漢字でかけば食事である。食事とは文字通り「食べごと」であった。食べるだけのことではない。台所仕事だけでもない。食べることに係わるすべてに、豊かに広がっていく世界である。

食べごと(食事)から広がる世界



将来、日本をそして世界を担う子ども達には、
“エシカル”な消費者に育て欲しい...

今、重視される“エシカル”な行動・“エシカル”な人づくり

消費者基本法・環境基本法・循環型社会形成推進基本法・食料・農業・農村基本法・食育基本法等、あらゆる法の中で「**エシカル消費**」ができる**人材育成**が協調されている。エシカル消費とは、地域の活性化や雇用なども含む人や社会、環境に配慮した消費行動（消費者基本計画）。



←世界の未来を変える「**エシカル消費**」の基本は「**農林水産業**」に繋がっている（**今一度、第一次産業、農林水産業の価値を見直す**ことが求められる）。

※日本の環境への意識もヨーロッパ諸国等よりも低い。



「エシカル消費」ができる消費者を育成することは容易ではない（多大な時間を要する）。



幼少の頃から、自然に親しみ、地域の産業、地域のあらゆる資源に目を向ける契機となる教育が必要。

- ⇒エシカルな行動ができる国民の育成
- ⇒心身共に健全な国民の育成(ウェルビーイング社会の構築)
- ⇒農林水産業に携わる人材の育成
- ⇒社会の課題解決に向けて新たなイノベーションを起こせる人材の育成

図:消費者庁資料

国民一人一人のエシカル消費によって、
地域の農林水産業を支えていくことが身近なSDGs貢献への基本